

紀尾井だより

1/2 January / February 2021 [Vol.145]

25
KIOI HALL
NIPPON STEEL
Arts Foundation

インタビュー

紀尾井 午後の音楽会 祭一億うー

杵屋利光 (長唄)・稀音家祐介 (長唄三味線)・沖 仁 (フラメンコギター)

2021年度注目の公演Pick Up!

連載

邦楽名曲解体新書 私のおすすめこの一曲

新内節『明烏夢泡雪』

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話

ヨハン・シュトラウスをめぐる3話



紀尾井ホール



ARTIST
Interview

杵屋利光・稀音家祐介・沖 仁

(長唄)

(長唄三味線)

(フラメンコギター)

異色のコラボレーションに高まる期待

紀尾井 午後の音楽会 祭 — 憶う —

取材・文／芹澤 一美 撮影／堀田 力丸

新年を飾る『紀尾井 午後の音楽会 祭^{おも}—憶う—』で、長唄の杵屋利光(以下、利光)さん、長唄三味線の稀音家祐介(以下、祐介)さんと、フラメンコギターの沖 仁(以下、沖)さんがひとつの舞台を創りあげます。紀尾井ホールならではの異色のコラボレーションを前に、お三方にお話を伺いました。

可能性を秘めたコラボレーション

——今回のコラボレーションに向け、それぞれのお気持ちを聞かせてください。

祐介 お客さまに楽しんでいただける舞台にしたいですね。三味線を西洋音階に合わせると左手の動きがイレギュラーになることが多く、経験上、コラボしづらい印象があります。ともすると、お刺身にピザソースをかけた、みたいなものになりかねません。ただ、パラパラと細かく音が続くところにフラメンコギターと三味線の共通点も感じますし、私自身、指揮者になりました。たっくらいのオーケストラ好きでもありますので、ぜひとも、新鮮なお魚に西洋の美味しいソースがかかった絶品のカルパッチョにしたいと思っています。

利光 私も幼いころから西洋楽器に慣れ親しんでいました。身近にギターやドラムがあり、洋楽を聴くのも好きでしたので、西洋音階も耳に馴染んでいます。フラメンコにどのような唄を組み込んでいけるのかというところが、まだ想像つきませんが、逆にそこが楽しみでもあります。

沖 僕も、この舞台にとってもやりがいを感じています。これまで、ジャンルを問わず、いろいろな形のコラボレーションをしてきましたが、長唄というジャンルには敷居の高さを感じていました。実は義弟が長唄の演奏家として、母や妹も長唄三味線をやっていましたので、いつかきちんとし

た形で、長唄とコラボしたいと考えていました。

祐介 義弟さんと、つい先ほどまで歌舞伎座で一緒にいました。

沖 それはそれは。その義弟と、ある能楽堂で全3回のシリーズをやらせていただく機会があり、その時に長唄とのコラボに大きな手応えを感じました。フラメンコギターは西洋楽器ではありませんが、むしろ東洋性が強いのではないかという思いが芽生えて、そう感じるようになってからは、長唄ともコラボできるのでないかと思うようになりました。

利光 その公演、できれば聴かせていただきたいかったですね。

祐介 私も、フラメンコの歌を聴いていると、なんとなく邦楽っぽいものを感じます。沖さんのおっしゃる東洋性ということに共感しますね。そういう意味では、今回も美味しいカルパッチョになる予感があります。ただ、その接点がとても狭いように思います。

沖 おっしゃる通りです。長唄とのコラボは、やればやるほど難しく、たとえば



稀音家祐介



杵屋利光

邦楽の音を五線譜に直してやってみると、ある程度は噛み合うのですが、それではいまひとつ踏み込めない感じもあります。ただ、ものすごい脈脈のようなものがある予感もあり、自分なりに温めていきたいと思っています。

ここでしか生まれない「間」

——コラボレーションの舞台は、実際にはどのような形になるのでしょうか。

利光 先ほど沖さんが「五線譜だと踏み込めない」とおっしゃいましたが、私もアドリブっぽい方が、おたがいが寄ってくるのではないかと思います。古典芸能は形式的な決まりごとが多々ありますが、それにとらわれずに自由な感じにもつていく方が、音楽としてカッコよくなるのではないかと思います。

祐介 確かに長唄は制約が多く、私たちはそれが身に染みついていて、そこから外れることが難しいわけで



沖 仁

す。であれば、いつそのことゼロベースでやる方がいいのかもしれないですが、それはそれで制約がなさすぎて困りますね。

沖 そうなんです。これまでのコラボでも、リハーサルをしていると自然に歩み寄っていくのですが、ふと「これでいいのだろうか」と思って、試しにソロで演奏していただくと、その方がよかったです。

（笑）。本当に難しいですね。

祐介 ジャズで、憧れのプレイヤーの演奏を30人、40人と完全コピーしていくと、初めて41人目に自分が出てくるという話を聞いたことがあります。私たちも同じです。往年の名人や先輩の演奏が部品のうにうまくピースを持ってきて演奏することがあります。長唄にもある程度、自由な枠というものがありますので、そういうところが生かせればと思います。

利光 フラメンコにも自由な部分があると思いますが、そこは似ていますね。

沖 そうですね。その場の呼吸や雰囲気

に合わせていくところがあります。歌い手の呼吸に合わせてるのが一番難しく、同時にもしっかりとフラメンコらしいところでもあります。

祐介 長唄もまったく同じです。同じ曲をやっても、唄い手によって違う切り口が出てきます。そこを突き詰めると、つまりは「間」なんです。

利光 本当にそうですね。「間」は毎日、違いますし、演奏者のその日の体調にもよります。

沖 「間」というのは核心ですね。もつとも難しい部分だと思います。フラメンコで「オレ！」と掛け声がかかって一瞬が決まる時の感覚が、長唄にもあるように感じるのですが、思わず心の掛け声をかけたくなるような瞬間が、1回でもあれば大成功なのかなと思っています。

——当日はどんな「間」が生まれるでしょうか。ますます楽しみになってきました。ありがとうございます。

紀尾井 午後の音楽会 祭

おも 憶う

2021 1/14 (木) 13:30

【出演】
杵屋利光、稀音家祐介(長唄)
沖仁(フラメンコギター)
藤舎千穂連中(ほか)

【曲目】
長唄「神田祭」
レスベート・イオルゲージョ〜誇りと敬意〜(ファルーカ)
「さくらさくら」
長唄とフラメンコギターによる獅子

注目の公演

2021年度

Pick Up!

2021年度も、紀尾井ホールは多くの音楽ファンにご満足いただくとを目指し、主催公演を企画しています。このコーナーでは、その中からいくつかをピックアップしてご紹介しましょう。

まずは21年度企画のコアを成すピアノから。この年はずっと20歳ずつ離れた3人のピアニストが紀尾井ホールに登場します。5月に予定されているイゴール・レヴィットは、3人の中でもっとも若いピアニスト

5/12(水)・13(木)

イゴール・レヴィット



イゴール・レヴィット © Felix Broede

ですが、その注目度は圧倒的です。早くからザルツブルク音楽祭でのモーツァルトやム音楽院最優秀学生受賞者コンサート出演やウィーン・フィルとの共演、ルツェルン・ピアノ音楽祭開幕アーティストへの抜擢、そして20/21年シーズンにはバイエルン放送交響楽団のアーティスト・イン・レジデンスに選ばれるなど、まさに飛ぶ鳥を落とす勢いで、いまやヨーロッパでは誰もが目を離せない存在です。この度の紀尾井ホールデビューにあたって、異例の全4公演を組みました。21年と22年の2年をかけてベートーヴェンのソナタ選集をお届けします。

続いては、ドイツの重鎮ペーター・レーゼ

ル。紀尾井ホールとは15年にもわたるお付き合い合いで、紀尾井ホールの代表的アーティストの一人とも言える存在です。延期となっていた日本での最後の公演が10月に実現します。名残惜しさが尽きませんが、どうぞ彼の音と音楽を耳に焼き付けてください。

10/1(金)

ハインツ・ホリガー



ハインツ・ホリガー © Priska Ketterer

そして11月のピョートル・アンデルシェフスキ

キ。彼は今回紀尾井ホール室内管弦楽団(KCO)のソリストとしてモーツァルトの協奏曲を2曲演奏しますが、それだけにとどまらず、ソロ・リサイタルも開催します。バッハの平均律クラヴィーア曲集第2巻から12曲を披露してくれます。高い思索性と徹底した完璧主義による孤高の音楽家アンデルシェフスキの透徹したバッハ演奏は、まさに画期的なものとなるに違いありません。

ピアノ以外では、弦楽四重奏で2年ぶりにベルチャ弦楽四重奏団が帰ってきます。研ぎ澄まされた精度と、4人とは思えぬスケール感、途絶えることのない豊かな歌など、現代の弦楽四重奏の極北がここにあります。

アンサンブルでは、モリス・ブルグと並びオーボエの神ともいわれるハインツ・ホリガーをお招きします。オーボエだけでなく、作曲も指揮も自在にこなすパーフェクトな音楽家であるホリガーが、今回はフルー

11/13(土)

ピョートル・アンデルシェフスキ



ピョートル・アンデルシェフスキ © Simon Fowler

トのフェーリクス・レングリらの仲間とKCOのメンバーらとともに、グノーの小交響曲をはじめ管楽合奏の魅力をつぶりと聴かせてくれます。

最後に日本人アーティストの中から葵トリオを。優れたアーティストと3年間にわたるタッグを組んでクリエイティブな場を生み出し発信することを試みる新シリーズ「レジデント・シリーズ」を開始します。その初回を飾るのが若き葵トリオ。シューマンを3年間のテーマに選び、この作曲家をキーワードに葵トリオがダヴィッド同盟と化してピアノ・トリオの真髄に迫ってゆきます。

駆け足でいくつかご紹介しましたが、その他のプロジェクトも精魂込めてお届けします。どうぞお楽しみに！

2021 3/16(水)

葵トリオ(ピアノ・トリオ)



葵トリオ © Nikolaj Lund

私のおすすぬこの一曲

新内節

あけがらすゆめのあわゆき

『明烏夢泡雪』

お話／新内 仲三郎さん

人情機微に触れ、
哀切を歌いあげる

新内節の起源は約三百年前に京都で生まれた一中節に遡ります。一中節から派生し、宮古路豊後掾という浄瑠璃の太夫(音曲の語り手)が豊後節を創始します。江戸へ下って江戸庶民に大変な人気を博しますが、その艶やかな表現が風紀を乱すということで、幕府から禁止の憂き目に。豊後掾は京都へ逃避し、残った門人たちによって作られたのが常磐津節、富本節、新内節。富本からは清元が生まれました。

新内も初期のころは歌舞伎に出演し、修業と宣伝のために花柳界やお屋敷町に出向いて行ったのが文化文政のころ、「流し」の始まりです。この流しによって新内の独自性を持つきっかけとなって確立しました。その時々の特事についても語るのですが、少しは瓦版の役割もしていたんですね。今で言うシンガーソングライターの走りです。唐棧という縞の着物を着て、頭には髻に表れる身分を隠すために手拭い。旗本の次男坊や三男坊も流していたそうです。駕籠や馬に乗って

いた時代に合った、ゆったりとしたメロディですね。演奏の構成は「太夫」と、主旋律を弾く「本手」、高音を弾く「上調子」の三人が基本です。上調子はアドリブで弾くこともあり、太夫や本手の邪魔にならないように、いかに効果的に美しく入っていくのかという点が難しくもあり、且つ聴きどころでもあります。詞章は人情機微に触れ、哀切を語りあげる。曲調は哀愁と華やかさを併せ持っています。

新内の三大名曲の一つ
三味線も聴かせどころ

新内の三大名曲として『蘭蝶』『明烏夢泡雪』『伊太八』が知られています。『蘭蝶』や『伊太八』はクドキ(太夫の語り)の部分が多いのですが、『明烏』は三味線の演奏もバランスよく入り、変化に富んだ曲です。

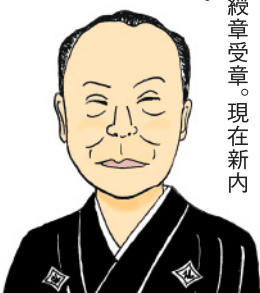
心中と言えば新内、新内と言えば心中と言われるほど、心中を美しく語り上げるのが新内ですが、この『明烏』も実際にあった事件を初代鶴賀若狭掾が脚色して作られています。吉原「山名屋」の花魁・浦里と春日屋時次郎はお互いに想い合う仲ですが、時次郎は借金で首が回らなくなり、心中しようとう浦里の部屋に忍びこむ。時次郎は見つかって放り出され、浦里は罰として雪の降りしきる中、庭の古木にくくられて、禿のみどりも一緒に折檻されます。そして山名屋の主人が

去った後、時次郎が屋根伝いに忍んでき、浦里とみどりを小脇に抱えて塀から飛び降りて逃げていく。塀の高い塀を飛び越えていく見せ場で、三味線は「物語の手」と言って名乗る時などに使う手曲を盛り上げています。結末はいわゆる「夢オチ」でぼかしていますね。史実を語るとお上からお咎めを受けるから、逃げ道を作っている。時次郎たちに逃げ延びてほしいという人々の期待も込められているのでしよう。この後日談を為永春水が『明烏後正夢』として人情本に書き、新内節中興の祖と呼ばれる富士松魯中が『明烏後正夢』作詞作曲しています。それほどまでにこの『明烏』は人気の曲なんです。

取材・文イラスト／尾花知美
(月刊『江戸楽』編集部)

新内 仲三郎

昭和十五年東京都生まれ。同三十年叔父の新内仲造に入門、同三十二年新内仲三郎を名乗り師範となる。同五十九年六代目富士三元派家元を継承。平成五年芸術選奨文部大臣賞、同十年伝統文化ポール賞ほか受賞多数。同十三年重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。同十五年紫綬褒章受章。同二十三年旭日小綬章受章。現在新内協会副理事長。



クラシック音楽の
テーマに基づく3つの話

ヨハン・ シュトラウスを めぐる 3話

ヨハン・シュトラウスはさまざまな意味で、19世紀中葉から後期にかけてのウィーンの断面をよく示している。ここでは3つの側面からヨハン・シュトラウスにスポットライトを当ててみたい。

1 父子で分かれる 曲作りへのアプローチ

ヨハン・シュトラウス2世は同姓同名の父とは必ずしも良好な関係ではなかった。父は家庭を顧みないだけでなく、才能に恵まれた息子はライヴァルでもあった。1848年三月革命が引き金になって北イタリアやボヘミア、ハンガリー蜂起が起きると、オーストリアは軍を差し向けて反対勢力を鎮圧する。このとき父は委嘱を受けて《ラデツキー行進曲》や《イエラチツチ行進曲》を作曲している。それに對してシュトラウス2世は反体制的で、《革命行進曲》や《バリケードの歌》を作

曲し、それがために警察の取り調べを受けた。

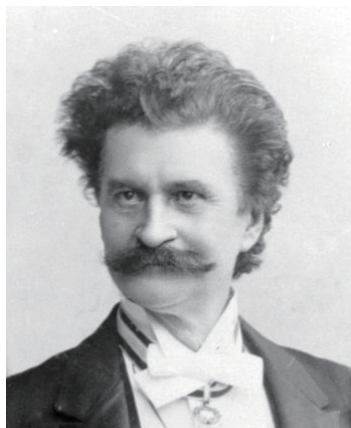
父シュトラウス1世は奇妙な作品も作曲している。それは《バリ・ワルツ》である。当時のメッテルニヒ体制では革命を扇動するとしてフランス国歌の《ラ・マルセイエーズ》は発禁となっていた。しかしこのワルツでは《ラ・マルセイエーズ》が堂々と登場し、ウィーンの人々はこの音楽に合わせて踊ったのである。この作品が厳しい検閲を通過した理由は不明である。ウィーンを訪れたシューマンはこれを耳にしている。《ラ・マルセイエーズ》を《ウィーンの謝肉祭騒ぎ》に取り入れている。

2 人々を励まし続けた シュトラウス2世

自由主義的なシュトラウス2世の姿勢は、1866年の普墺戦争でも発揮されている。この戦争は中央ヨーロッパでのドイツ語圏の覇権をめぐる戦争で、彼は自宅を将校ための病院に提供し、慈善演奏会を開催して尽力した。しかし、オーストリアはあつさりプロイセン王国に敗北する。この敗北はオーストリアの人々には強い挫折感を与え、この敗戦によってウィーンは陰鬱な空気に満たされる。そこでウィーン男声合唱協会からの依頼でシュトラウス2世が作曲したのが《美しき青きドナウ》である。元来は男声合唱曲であるが、その後《合唱とオーケストラの

ためのワルツ》に改作され、オーストリアをもっとも象徴する作品として親しまれている。

シュトラウス2世の時事的な作品に《エジプト行進曲》がある。スエズ運河が開通し、1871年に皇帝フランツ・ヨーゼフも臨席した、スエズ運河開通式典という世界中を沸かせた催しが行われた。シュトラウス2世は異国趣味的な要素を取り入れたこの作品を通してウィーンの人々にこの出来事を伝えた。



シュトラウス2世



シュトラウス1世

3 世紀末ウィーンに オペレッタ文化開花

3つ目に注目したいのはオペレッタである。シュトラウス2世はオペレッタ作曲家としてバリで成功を収めていたドイツ人のオッフェンバックのオペレッタをウィーンにもたらす。ウィーンはオペレッタ文化の幕開けである。とくに《こうもり》が年末の恒例行事になっていることは有名であるが、彼がその後のレハールやカルマンらの創作の生みの親であった。シュトラウス2世の甘美で愁いを忘れさせるオペレッタともに世紀末ウィーンは暮れていくのである。

文 西原稔(桐朋学園大学名誉教授)

室内オーケストラ・フェスティバルIV

紀尾井ホール室内管弦楽団
with ライナー・ホーネック
特別演奏会 KCO名曲スペシャル

I 2021
1/23
土
16:00

II 2021
1/24
日
14:00

【公演中止】

※本公演は、新型コロナウイルス感染拡大の現況を考慮し、中止となりました。公演を心待ちにくださっていた皆さまに深くお詫び申し上げます。

紀尾井ホール室内管弦楽団 紀尾井ホール開館25周年記念CDリリース!

紀尾井ホール開館25周年を記念して、首席指揮者ライナー・ホーネックと紀尾井ホール室内管弦楽団の初のコラボレーションアルバムをリリースしました。紀尾井ホール室内管弦楽団への改称後初のCDともなります。収録作品は、2019年4月に開催した第116回定期演奏会<ホーネックのモーツァルト選集Ⅲ>よりモーツァルト《交響曲第25番》と、2020年2月に開催した第120回定期演奏会から、ベートーヴェン《交響曲第7番》。ホーネックの弾き振りでベートーヴェン《ロマンス第1番》をアンコール風に収めました。ホーネックとともに歩み培ってきた楽団の見事なアンサンブルを堪能いただける自信作です。

〔取扱い〕 オクタヴィア・レコード、HMV、タワーレコード、Amazon

モーツァルト : 交響曲第25番短調 K.183	ライナー・ホーネック (指揮・ヴァイオリン)
ベートーヴェン : 交響曲第7番イ長調 Op.92	紀尾井ホール室内管弦楽団
ベートーヴェン : ロマンス第1番ト長調 Op.40	EXTON OVCL-00738
	収録・制作・販売元: 株式会社オクタヴィア・レコード



紀尾井友の会 特典施設のご案内

〈営業内容・営業時間に変更がある場合がございます。ご利用の際は各施設ホームページなどでご確認ください。〉

ご利用の際は
会員カードをご提示ください。

ザ・プリンスギャラリー 東京紀尾井町

(東京メトロ永田町駅直結)

All-Day Dining OASIS GARDEN

「空中庭園」をコンセプトにカジュアルにお食事を楽しめる洋食レストラン。地上180mの景色とともに、ライブ感のあるキッチンの賑わいを感じていただけます。挽きたてのコーヒーの香りとともにブッフェ、アラカルト、コース料理など多彩なメニューをご堪能ください。



【特典】
ご利用代金より10%off

【営業時間】 ランチ 11:30~15:30
※短縮営業中
ディナー 17:30~22:00

お問合せ TEL.03-3234-1136

ホテルニューオータニ ザ・メイン アークード街

(東京メトロ四ツ谷・赤坂見附・永田町駅徒歩6分)

ニューオータニショップ東京

ハンドクラフトタブレットチョコレート(アーモンド/ヘーゼルナッツ)

カカオとミルクの絶妙なバランスのミルククーベルチュールと、柔らかな酸味とチョコレートフレーバーとの優れたバランスが特徴的なダーククーベルチュールを流し込んだ2層のタブレットチョコレート。たっぷりのナッツ類と岩塩がアクセントのチョコレートはお酒との相性も抜群です。(税込1,944円)

【特典】
ニューオータニ
オリジナル商品のみ
お会計より10%off

お問合せ TEL.03-3221-4029



※写真はイメージです。

【営業時間】 10:00~19:00

編集後記



新しい1年が始まります。今号の巻頭インタビューは、新年の幕開けを飾る紀尾井 午後の音楽会 祭一憶うー(1月14日開催)にご出演のお三方にご登場いただきました。一見すると接点のなさそうな日本の長唄とスペインのフラメンコギターですが、お話を伺っていると、音楽は国やジャンルに関係なく、本質的に一緒なんだ、共有できるものなんだと改めて実感し、当日の演奏がとても楽しみになりました。

今号の表紙

『小鼓とスイセン』

【協力】花/hanadouraku
鼓/望月太左衛

インドから中国へ経て、雅楽に用いる楽器として伝わった小鼓。その後能や歌舞伎で用いられ定着しました。スイセンは同じく中国から渡ってきた花で、雪の中に春の訪れを告げることから別名「雪中花」とも呼ばれます。新春のころには水辺が美しい花と上品な香りに包まれます。

紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員 (五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略)

【特別協賛会員】 A.ランゲ&ゾーネ/日鉄ソリューションズ/三菱商事/三菱地所
【みやび会員】 伊藤忠商事/大島造船所/KDDI/菅原/住友商事/丸紅/三井住友銀行/三井物産/三井不動産/三菱商事/三菱地所/メタルワン ほかに匿名2社
【ひびき会員】 オカムラ/きらぼし銀行/高砂熱学工業/竹中工務店/山下設計
【みどり会員】 青鬼運送/赤坂新新線/赤坂 エクセルホテル東急/今治造船/ヴォートル/エーケーティ/NTTドコモ/荏原冷熱システム/鹿島建設/ザ・キャピトルホテル 東急/三協/清水建設/上智大学/スタインウェイ・ジャパン/西武プロパティーズ/大成建設/千代田商事/テイスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/ニュー・オータニ/ハウス食品グループ本社/パナソニック/富士ゼロックス/松尾楽器商会/三井住友信託銀行/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券/ミュージック/明治座舞台/ヤマハサウンドシステム/有帆
【おおい会員】 青木陽介/飯沼万里子/石崎智代/磯部治生/井上善雄/植竹浩樹/小島 徹/片山能輔/久保祐子/倉吉遼介/栗山信子/近藤真子/佐久間庸行/佐伯いく子/志立正嗣/清水 正/清水多美子/清水康子/鈴木 亮/高下謹吾/高橋義徳/田中 進/外山雄三/鳥居狂太/中塚一雄/中西達郎/西村剋美/原田清朗/北條哲也/堀川将史/牧本恵美子/松枝 力/松原 良/松本美恵/簗輪永世/宮本信幸/陸田 実/村上喜代次/持留宗一郎/八木一夫/八木晶子/山内寿実/横地卓哉/吉峯裕毅 ほかに匿名21名 計190口
(2020年12月1日現在)

特別支援会員 (五十音順・「株式会社」等表記略)

アステック入江/五十鈴/NST日本鉄板/NSユナイテッド海運/NSユナイテッド内航海運/エヌエスリース/エヌテック/大阪製鐵/丸鋼工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鐵/小松シヤリング/山九/産業振興/三晃金属工業/サンユウ/三洋海運/ジオスター/スガテック/大同特殊鋼/大和製鐵/高田工業所/鶴見鋼管/DNPエリオ/テツゲン/東海鋼材工業/東邦シートフレーム/トビー工業/日亜鋼業/日鉄環境/日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄建材/日鉄鋼管/日鉄鋳業/日鉄鋼線/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄ソリューションズ/日鉄テックスエンジニア/日鉄ドラム/日鉄日新製鋼/日鉄物産/日鉄物流/日鉄物流君津/日鉄物流八幡/日鉄保険サービス/日鉄ボルテン/日鉄溶接工業/日本金属/日本触媒/濱田重工/富士鉄鋼センター/不動テトラ/幕張テクノガーデン/三菱金属工業/三島光産/宮崎精鋼/吉川工業
日本製鉄 (2019年度、匿名一社除く)



フォトレポート 最近の公演から

YouTubeチャンネルで公演のダイジェスト映像を配信中!

10.1(木) 紀尾井 午後の音楽会 祭 みた ー 充すー



アンケートより

尺八・ヴァイオリン・ハープが共演した宮城道雄『湖辺の夕』。どこか西洋の香りがする旋律は、この編成にぴったりで、ゆったりとした湖を眺めているような気分になりました。



10.13(火) 浮世絵で楽しむ邦楽～大谷コレクション1 鶴屋南北の女たち



新シリーズが始まりました。前半に錦絵を見ながら曲の背景や当時の様子が解説され、後半の演奏をより分かりやすく聞くことができました。

11.20(金)・21(土) 紀尾井ホール室内管弦楽団 第124回定期演奏会



アンケートより

コロナ禍で長く生のオーケストラを聴く機会がなかったので本当に幸せな時間でした。音楽の素晴らしさを再認識しました。



公式SNSで最新情報配信中

紀尾井ホール



紀尾井ホール 室内管弦楽団



チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/webticket>

紀尾井ホールチケットセンター TEL.03-3237-0061 13:00~17:00(日・祝休)

※短縮営業中。変更となる場合がございます。ご了承ください。

〈年末年始休業のお知らせ〉

紀尾井ホールチケットセンターは2020年12月30日(水)~2021年1月3日(日)まで休業させていただきます。

紀尾井ホール

公益財団法人 にっぽんせいりてつ 日本製鉄文化財団

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号 TEL.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527 <https://kioihall.jp>



紀尾井ホールより11月2月号 2021年(令和3年)1月1日発行隔月発行通巻145号 ●企画編集発行:公益財団法人日本製鉄文化財団 内田勇人 ●編集デザイン印刷:株式会社エイチアンドアールプロモーション